

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32406

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01617

研究課題名（和文）戦後復興期日本の闇物資流通・取締と民衆：1948年甲府専売支局管内闇煙草の事例

研究課題名（英文）The distribution of illegal goods, their control and the people in Japan during the postwar reconstruction period

研究代表者

山本 裕（YAMAMOTO, YU）

獨協大学・経済学部・教授

研究者番号：10550113

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、戦後復興期日本の闇物資流通・取締とそれに対する民衆の認識を考察し、双方間の関連性を考察した。戦後復興期の闇市場は非合法的存在ながら物資の供給に不可欠な役割を果たしたが、史料的制約から同市場の物資流通と取締の実態に関する経済史・流通史的考察は立ち後れてきた。そこで、1948年に甲府専売支局が闇煙草の摘発時に作成した『専売取締事件簿』（西南学院大学図書館所蔵）と『山梨日日新聞』・『山梨時事新聞』（1969年廃刊）掲載関連記事より、闇物資の流通、闇物資取締の実態と限界、闇市場に対する民衆の認識を考察した。そして、以上の分析より農村地域の自給自足的な闇物資取引の実態を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、商品市場形成の過程と要因を捉え直す試みである。日本では戦時統制期から物資不足と流通不全によって闇市場が自然発生し、戦後復興期まで政府は取締に注力した。違法な闇取引の記録を取引の当事者は取締回避の目的から保存しない。それゆえに、既往の歴史研究は史料上の制約から闇市場の内実には迫ることができなかった。しかし、本研究が用いた取締史料は商品市場の拡大過程を克明に記録している。これら記録の分析より、商品市場の拡大過程は地域内で生産、加工、流通からなる分業構造の確立過程を内在していたことが判明した。こうした分業構造の確立は、域内の自給自足構造と商品市場の拡大に不可欠な要素であった。

研究成果の概要（英文）： This project investigates commodity circulations in black markets, the crackdown on illicit trading, and the public recognition of the black markets after the Second World War in Japan. The black market, an illegal entity, was indispensable in supplying various goods during the late 1940s. However, few previous studies focus on the black market since traders merely saved their records. Accordingly, this project utilizes the original documents issued by the Kofu Monopoly Office in 1948, which enforced strict regulations on the tobacco black market, and local newspapers in Yamanashi Prefecture. These historical documents enable us to examine the distribution of black-market goods, the government's regulations on illegal trade, and the public recognition of the black market. Finally, we find that the rural communities formed the subsistence circulation areas of black-market goods after the war.

研究分野：日本経済史

キーワード：日本経済史 戦後復興期 闇市場 煙草 専売 山梨県 日本専売公社 大蔵省専売局

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

太平洋戦争敗戦後の日本では物資不足とインフレが深刻化し、1946年の食糧緊急措置令、物価統制令、臨時物資需給調整法による戦後配給統制が実施された(通商産業省編 1980)。但し、ヤミ米を拒んだ山口良忠判事(東京区裁判所)の餓死に象徴されるように、配給は民衆に十分な量の必要物資を供給し得なかった(山形 1982)。かかる状況下において全国では闇市場が簇生し、非合法的な存在ながら物資の供給に不可欠な役割を果たした。しかし、非合法性ゆえに闇市場の物資流通・取引が記録された史料は皆無に等しいとされてきた。そこで、闇市場に関する既往の歴史研究は新聞など2次史料を利用し、都市史と社会史の視角から分析を進めてきた。

都市史の視角に基づく先行研究として芝村(1990)、橋本・初田編(2013)、村上(2018)は闇市場に都市復興の萌芽を見出した。社会史の観点からは田中(1996)、松平(1985)、安田編(2013)が戦後大衆消費社会の原点として闇市場を理解し、初田(2018)は闇市場内部のエスニシティに関わる対立を描写した。このように既往研究は戦後日本社会の形成過程に闇市場を定置したが、史料的制約に起因する2点の課題を残した。

第1に先行研究は史料的制約から新聞など2次史料を多用したが、占領政策に起因する史料的限界を検討していない。戦後復興期の新聞はGHQが検閲し、1945年9月発令のPress Code for Japanは1952年のサンフランシスコ講和条約発効まで適用された(江藤 1994)。そして、西(2004)は検閲の基準を考察したが、具体的に公開禁止処分を受けた記事の内容までは検討していない。したがって、闇市場史研究で不可欠な新聞の史料的限界は判然としていない。

第2に、史料的制約から闇市場の物資流通と取締の実態に関する考察は立ち後れてきた。闇市場は消費生活の基盤として機能し、取締時の黙認事例も多かったとされる(長廣 2017)。そこで、闇物資流通と「阻害」要因たる取締の考察は戦後復興期消費生活の実態把握に不可欠な課題として掲げられ、都市史・社会史のほかに経済史・流通史の視角からも分析が必要であろう。

以上の学術的背景と課題に即し、本研究は新発掘の闇煙草取締関係史料を分析する。1898年導入の葉煙草専売制度は1904年に製造煙草専売制度へ転換した。それから同制度は戦後復興期も継続し、1984年のたばこ事業法制定まで存続した。したがって、戦後復興期においても煙草は統制対象品であったが、他の物資と同様に闇市場では闇煙草が流通した。しかし、終戦前から大蔵省専売局の取締体制は脆弱化し、1947年頃まで闇煙草は事実上の野放し状態となった。そこで、翌1948年に同局は取締体制を再興し、同年の取締件数は7万件を超えるまでに急増した(日本専売公社 1964)。こうした1948年に山梨県の甲府専売支局が闇煙草の摘発時に作成した『専売取締事件簿』(西南学院大学図書館所蔵)を本研究は分析する。

『専売取締事件簿』は被取調者約500人の個人情報、「犯則月日」、「取調着手月日」、「犯目又は処分を為したる法律の條項」、「犯則事實又は処分を必要としたる理由の要領」、「差押物件」などを網羅的に記録する。したがって、同史料は対象が山梨県に限定されるが、県内闇煙草摘発事案の網羅的かつ細密な分析を可能とする。

<参考文献>

江藤淳(1994)『閉された言語空間：占領軍の検閲と戦後日本』文春文庫。

芝村篤樹(1990)『都市の近代：大阪の20世紀』思文閣出版。

田中はるみ(1996)「京都の闇市」『史泉』(関西大学)83, 1-17頁。

通商産業省編(1980)『商工政策史7：内国商業』商工政策史刊行会。

長廣利崇(2017)「戦時・戦後復興期の商業」廣田誠ほか『日本商業史：商業・流通の発展プロセスをとらえる』有斐閣, 193-244頁。

西修(2004)「日本国憲法の記述に関する連合軍司令部の検閲の実際」『駒澤法学』3-2(10), 1-68頁。

日本専売公社(1964)『たばこ専売史 第二巻』。

橋本健二・初田香成編(2013)『盛り場はヤミ市から生まれた』青弓社。

初田香成(2018)「第二次世界大戦後日本の闇市に見る危機と復興」『歴史評論』818, 66-78頁。

松平誠(1985)『ヤミ市』ドメス出版。

村上しほり(2018)『神戸 闇市からの復興：占領下にせめぎあう都市空間』慶應義塾大学出版会。

安田常雄編(2013)『社会を消費する人びと：大衆消費社会の編成と変容』岩波書店。

山形道文(1982)『われ判事の職にあり』文藝春秋。

2. 研究の目的

本研究の目的は戦後復興期日本の闇物資流通・取締とそれに対する民衆の認識を考察し、双方間の関連性を解明することである。具体的な分析課題には3点を挙げられる。

闇物資の流通実態を解明する。先述したように史料的制約から闇物資流通の実態解明は立ち後れてきたが、新発掘の1次史料から煙草を事例に考察する。

闇物資取締の実態と限界を解明する。既往研究は取締時における黙認事例の存在を指摘したが、史料的制約から黙認を含む取締の実態は把握されてこなかった。しかし、本研究は取締に関する1次史料の分析から上記課題の克服を試みる。

闇市場に対する民衆の認識を考察する。左記の点は新聞を用いた既往研究でも主たる論点に掲げられてきたが、史料的制約から闇物資流通・取締の実態との対比は為されてこなかった。そこで、新聞記事の内容と で解明された闇物資流通・取締の実態を比較検討し、戦後復興期の民衆が闇市場に何を期待し、いかなる存在として捉えていたかを考察する。上記分析方法の採用は実態・認識間における齟齬の把握を可能とし、新聞検閲の実態解明まで展望し得よう。具体的に、本研究は山梨県内で正反対の論調を取った『山梨日日新聞』と『山梨時事新聞』(1969年廃刊)を考察の俎上に載せる。かかる考察より本研究は闇市場史研究の主要史料たる新聞類の史料的限界まで把握する。

3. 研究の方法

本研究では、先述した研究目的を踏まえ、以下4点の分析を実施する。

塩事業センター塩業資料室・西南学院大学図書館所蔵『局報』など大蔵省専売局関係史料に依拠し、闇煙草取締に関する法令と取締体制の整備過程を分析する。

『専売局年報』など大蔵省専売局刊行統計資料に依拠し、戦後復興期における全国的な取締状況を概観する。

西南学院大学図書館所蔵『専売取締事件簿』に依拠し、甲府専売支局管内における闇煙草流通の実態と取締状況を分析する。

国立国会図書館・山梨県立図書館所蔵『山梨日日新聞』・『山梨時事新聞』に依拠し、 - の分析結果を踏まえつつ、闇煙草流通・取締に対する民衆の認識を考察する。

本研究は1次史料と2次史料を併用し、煙草の事例から闇市場の動態と民衆の認識を実証的に解明する。かかる分析の準備として本研究は と の作業から開始する。

では、闇煙草取締に関する法令と取締体制の整備過程を分析する。煙草専売法と同法施行規則は取締の概略のみを規定し、具体的な取締規定を専売局は通牒等で定めた。したがって、日本専売公社(1964)が示した取締体制再興過程の把握には通牒類の検討が求められる。そこで、通牒類を網羅的に掲載した『局報』を分析し、1948年闇煙草取締件数急増の制度的要因を解明する。

では、戦後復興期における全国的な闇煙草流通と取締状況を概観する。福島県と茨城県の事例から日本専売公社(1964)は戦後復興期の葉煙草産地へ対する監視強化に言及しているが、取締状況等に関する定量的な把握は実施していない。そこで、『専売局年報』など統計資料の分析から取締件数の推移と抵触法令別の地域的違反傾向を把握する。

以上 の準備的考察を踏まえ、 では甲府専売支局管内における闇煙草流通の実態と取締状況を分析する。具体的な分析手順は、1913-14年坂出専売支局管内における塩専売法違反を考察した研究分担者(前田)執筆の前田(2020)が採用した方法に依拠する。すなわち、第1に『専売取締事件簿』の取締記録をデータベース化する。第2に抵触法令別の取締件数を山梨県内の地域別に算出し、GIS(Geographic Information System:地理情報システム)の利用から闇煙草流通と取締状況の動態を定量的に示す。そして、第3に以上の分析から見出された特徴的な事案を個別具体的に考察し、戦後復興期における闇物資流通の実態を解明する。

では、闇煙草流通・取締に対する民衆の認識を考察する。1945-69年山梨県下では「御用新聞」的性格を有した『山梨日日新聞』と革新的論調の『山梨時事新聞』が刊行され、双方の論調は正反対であった。そこで、両紙の記事内容を上記 - による考察結果と比較し、闇煙草流通・取締に対する民衆の認識を考察する。さらに、かかる考察から新聞記事内容と闇物資取締実態の間における齟齬を把握し、新聞検閲の実態まで検討する。

以上 - より本研究は既往研究が考察してこなかった闇市場における物資流通と取締の実態を解明し、先行研究が主要史料として用いてきた新聞類の史料的限界を指摘する。

<参考文献>

日本専売公社(1964)『たばこ専売史 第二巻』。

前田廉孝(2020)「日露戦後の必需品課税における脱税行為と監視・取締：塩専売法違反を事例に」『社会経済史学』85(4)、89-110頁。

4. 研究成果

本研究の各年度における成果は以下の通りである。

(1)令和3年度

本研究課題の遂行に必要な史料・データの収集・分析と先行研究のサーベイを進めた。研究代表者と研究分担者が実施した作業は以下の通りである。

研究代表者(山本)は、国立国会図書館で『山梨日日新聞』と『山梨時事新聞』を閲覧し、闇煙草取締と関連する記事を手に入れた。1948年時点の山梨県では「御用新聞」的性格の『山梨日日新聞』と革新的論調の『山梨時事新聞』が発行され、同一の事件を扱った記事であっても両紙の論調は異なっていた。そこで、論調の相違に着目しつつ、関連記事の目録を作成した。

研究分担者(前田)は、西南学院大学図書館所蔵『専売取締事件簿』(大蔵省専売局・1948年)

の分析を進めた。同史料は甲府専売支局が1948年に実施した取締の対象者約500名の情報を網羅的に記録し、同史料の全点撮影を終えた。同史料は全て毛筆・鉛筆・ボールペン・万年筆で書きされ、崩し字で記入されている場合も少なくない。そこで、記入内容を全て読み下し、エクセルにまとめた。

さらに、以上の作業と併行し、研究代表者と研究分担者は以下2点の作業を共同で進めた。第1は、専売法違反の取締に関する法令と取締状況を概観可能な統計書の入手を進めた。これまでに取締法令を網羅した『取締ノート 昭和二十九年』（日本専売公社・1954年）、専売制度の運用実態を示す『専売統計年報』（各年版）、『監視回報』（各月版）などを古書店より購入した。第2は、闇市場（Black Market）の経済史的考察が進んでいるヨーロッパにおける文献の入手・読解を進めた。そのなかでも Zierenberg, Malte. (2015) Berlin's Black Market: 1939–1950. Hampshire: Palgrave Macmillan の精読を進めた。

(2)令和4年度

本研究課題の遂行に必要な史料・データの収集・分析と先行研究のサーベイを令和3年度に引き続いて実施した。研究代表者と研究分担者が実施した作業は以下の通りである。

研究代表者（山本）は、令和3年度に国立国会図書館で収集済の『山梨日日新聞』と『山梨時事新聞』の記事を精読し、分析を進めた。両紙の論調は前者が山梨県の「御用新聞」の正確、後者が革新的と異なったが、いずれも山梨県を基盤とする地方紙であった。それゆえに、全国紙が扱わないような地元の詳細な情報が掲載されている。しかし、掲載された地名・人名等の情報を把握する必要があり、それに必要な関連情報の収集を進めることによって分析した。

研究分担者（前田）は、西南学院大学図書館所蔵『専売取締事件簿』（大蔵省専売局・1948年）の分析を進めた。同史料は甲府専売支局が1948年に実施した煙草専売法違反関連取締の対象者約500名の取調内容を網羅的に記録し、令和3年度までに記載内容のデータベース化を完了している。そこで、令和4年度には同データベースの分析を進めた。その結果、第1に甲府専売支局管内の煙草専売法違反事件は、農業が盛んな同地域の性格を反映し、種子・苗の密売買と密栽培を中心としていたことが判明した。戦後混乱期における闇物資流通の形態は、流通地域の特性に規定されていた。第2に同支局管内における紙巻煙草の闇流通は、同地域もしくは静岡県、茨城県など近隣県を含む農村地域で密栽培された葉煙草を原料としていたことが判明した。既往研究は東京など主要都市の闇市が広域的な闇物資流通のハブとして機能していたことを指摘した。しかし、上記史料の分析より農村地域の自給自足的な闇物資流通の実態が明らかになった。

(3)令和5年度

本研究課題において収集してきた史料・データの分析と史料の補足的な調査を実施した。研究代表者と研究分担者が実施した作業は以下の通りである。

研究代表者（山本）は、令和4年度までに収集した『山梨日日新聞』・『山梨時事新聞』に掲載された闇煙草流通・取締に関する記事の精読を通じ、当該期における民衆の認識に接近すべく考察を行った。この事前的な考察より戦後復興期における民衆認識の把握には、当該期の多様な社会運動・労働運動の実態まで視野を広げた検討が不可欠であることが判明した。そこで、上記課題の達成を目的として社会運動・労働運動に関する先行研究を広くサーベイし、論稿の準備を進めた。

研究分担者（前田）は、令和4年度までと同様に西南学院大学図書館所蔵『専売取締事件簿』（大蔵省専売局・1948年）の分析を進めた。令和4年度の実施状況報告書において報告したように、同史料は甲府専売支局が1948年に実施した煙草専売法違反関連取締の対象者約500名の取調内容を網羅的に記録し、そのデータベース化は完了している。しかし、闇物資の取引を実証的に考察した先行研究が皆無である状況下において論点の抽出に困難を来していた。そこで、2024年3月に米国ワシントン州シアトルで開催された Association for Asian Studies の Annual Conference に参加し、欧米圏の日本近代史研究者が集まる Modern Japan History Association のミーティングで情報を募った。その結果、フロリダ州立大学歴史学科の Annika A. Culver 氏より戦後占領期日本の闇市場を専門とするハーバード大学歴史学専攻の Jesus Solis 氏を紹介され、Solis 氏と共同研究を開始することとなった。Solis 氏との共著論文は2024年度内に査読付き国際学術誌へ投稿予定である。

(4)総括

本研究はCOVID-19に翻弄され、なかでも初年度（令和3年度）の史料調査では様々な制約に直面した。それゆえに、研究計画の遅延が生じた。しかし、令和4年度以降に必要な史料の収集を完了し、研究期間内に十分な分析を進められた。そこで、近年中には論稿の執筆が完了し、投稿できる目処が立っている。なお、令和6年5月に慶應義塾大学三田メディアセンターの令和5年度新規収蔵史料「須知善一旧蔵煙草専売関係史料」が闇煙草取締関係史料を含むことが判明した。同史料群は1,000点超の史料を含み、研究分担者（前田）を中心に慶應義塾大学文学部日本史学専攻が整理と目録作成を進めている。その進捗度は7割程度（令和6年6月現在）であり、完了後に同史料群も本研究に基づく論稿の執筆に利用する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Maeda Kiyotaka	4. 巻 65
2. 論文標題 Market-based financing for small corporations during early industrialisation: The case of salt corporations in Japan, 1880s?1910s	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Business History	6. 最初と最後の頁 502 ~ 524
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00076791.2020.1825689	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Maeda Kiyotaka	4. 巻 175
2. 論文標題 Distinctive Pricing in the Metropole of the Integrated Empire's Economy: Japan's Central and Local Rice Markets, 1900?1939	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 KEO Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1 ~ 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.4428628	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 166
2. 論文標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売り手印類似品	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 KEO Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Maeda, Kiyotaka	4. 巻 170
2. 論文標題 Colonial impact on Japan's economy: Dynamics of the rice market during the interwar period	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 KEO Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 76
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：日露戦後の塩専売制度批判	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 183-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 76
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：大蔵省専売局による塩専売制度の改定	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 238-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 75
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：植民地塩の輸移入と取引	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 204-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 前田 廉孝	4. 巻 75
2. 論文標題 講座「財政専売」の時代：19-20世紀転換期の食塩市場	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本海水学会誌	6. 最初と最後の頁 158-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本 裕	4. 巻 33
2. 論文標題 書評 老川慶喜著『満州国の自動車産業 同和自動車工業の経営史』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本 裕	4. 巻 76
2. 論文標題 満鉄販売部門の活動と展開 : 1930年代前半を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教経済学研究	6. 最初と最後の頁 99 ~ 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/0002000203	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 農産物価格調整政策と先物・現物市場: 1920-30 年代大阪米穀市場の分析
3. 学会等名 2023 年度慶應義塾大学東アジア研究所セミナー
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 植民地産品流通の地理的不均一性と商品価格形成: 1900-39 年東京・大阪・熊本米価の分析
3. 学会等名 社会経済史学会第92回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early twentieth century
3. 学会等名 Korean Economic History Society 2023 Summer International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Commodity futures trading and colonial imports in the metropole of Empire Japan
3. 学会等名 Academic Conference on Modern History of East Asia, National Taipei University (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early 20th century
3. 学会等名 East Asian Economic History Workshop, Ca' Foscari University of Venice (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early 20th century
3. 学会等名 The East Asian Studies Center Seminar "Food distribution and consumption in modern East Asia and the Japanese Empire" (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 戦前期日本の植民地米移入と米穀先物取引
3. 学会等名 第38回慶應義塾大学東アジア研究所学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本 裕
2. 発表標題 長春の旧糧棧、益発合にみる「公私合営」
3. 学会等名 社会経済史学会 第92回全国大会 パネルディスカッション パネル 「中国東北における私営工業の社会主義改造 - 長春・瀋陽・哈爾濱・鞍山の公私合営化を事例に - 」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売りと手印類似品
3. 学会等名 2022年度三田史学会日本史部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Colonial impact on Japan's economy: Dynamics of the rice market during the interwar period
3. 学会等名 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Did a small commodity exchange only mirror prices in a major market?
3. 学会等名 The 1st Academic Seminar of the Food Distribution and Consumption in Modern East Asia and the Japanese Empire (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 在来産業の製品ポートフォリオ拡張と低級品市場：1890-1910年代醤油醸造家・高梨家の地方売りと手印類似品
3. 学会等名 経営史学会第58回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Japan's colonies as suppliers of primary products: The circulation and pricing of colonial rice in Japan
3. 学会等名 Current Issues in Imperial History Workshop (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 書評会：前田廉孝『塩と帝国：近代日本の市場・専売・植民地』
3. 学会等名 経営史学会関東部会10月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Disparity in price formation between central and local commodity markets with the expansion of colonial imports: Analysis on the futures pricing of rice in Tokyo, Osaka, Kumamoto
3. 学会等名 The 2nd Academic Seminar of the Food Distribution and Consumption in Modern East Asia and the Japanese Empire (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Maeda, Kiyotaka
2. 発表標題 Distinctive pricing in the metropole of the integrated empire's economy: Japan's central and local rice markets in the early 20th century
3. 学会等名 Academic Conference on East Asian History (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamamoto, Yu
2. 発表標題 Comment on "Establishment and activities of Busan Rice Exchange in the 1930s" by Kim, Min-Hwa
3. 学会等名 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yamamoto, Yu
2. 発表標題 Comment on "Colonial management concept for total war institute in Asia-Pacific War: Focusing on research of food resources" by Nakamura, Ryo
3. 学会等名 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 地方零細銀行と地域経済：1898-1919年香川県宇多津町の製塩業金融
3. 学会等名 近世史フォーラム2021年度10月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田 廉孝
2. 発表標題 地方零細銀行と地域経済：1898-1919年香川県宇多津町の製塩業金融
3. 学会等名 2021年度第6回慶應義塾大学産業研究所（KEO）セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nagahiro, Toshitaka and Yamamoto, Yu
2. 発表標題 The technical change and labor situation of the Fushun coal mine
3. 学会等名 2nd World Congress of Business History（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本 裕
2. 発表標題 国共内戦期・共和国建国期の益発合
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会 中四国部会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 井奥成彦、中西聡	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 480
3. 書名 醸造業の展開と地方の工業化：近世・近代日本の地域経済	

1. 著者名 松本 俊郎、張 曉紅、山本 裕	4. 発行年 2023年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 358
3. 書名 「満洲国」以後	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	前田 廉孝 (Maeda Kiyotaka) (90708398)	慶應義塾大学・文学部(三田)・准教授 (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------